

睡眠呼吸障害による夜間頻尿と転倒の関連性の検討

・はじめに

転倒は、病院や施設等において最も高頻度に発生する事故の1つです。転倒リスクアセスメントは日本医療機能評価機構の評価項目として明記され、転倒防止対策が取られていますが、転倒の発生率は減少していないのが現状です。

転倒は夜間の排尿行動に関連した要因が多く、その要因は前立腺肥大症や心不全、睡眠障害など多岐にわたります。また、転倒による骨折や怪我は生活の質の低下や、基礎疾患の悪化、寝たきりなどに繋がり重要な問題となります。

近年、睡眠呼吸障害と夜間多尿との関連が報告されています。睡眠呼吸障害は、男性の24%、女性の9%に存在しますが、睡眠障害と転倒の関連については十分に解明されていません。そこで、本研究では、夜間転倒および夜間頻尿と睡眠呼吸障害の症状の関連を明らかにすることを目的し、転倒予防に貢献したいと考えています。

・対象

済生会二日市病院へ入院し、入院中に転倒した患者さん、約500名を対象に致します。

入院中の日常生活において看護師の介助が必要な方や、泌尿器疾患で治療を受けていた方、腎機能疾患により血液透析を受けている方、視覚障害や聴覚障害のある方、不整脈やてんかん、脳虚血発作などにより一過性の意識消失を有する方、脳血管疾患や精神障害などにより認知機能が低下した方は、この研究の対象に含まれません。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

・研究内容

過去4年間（H22・H23・H24・H25）の転倒統計結果および転倒者の報告書より対象者の診療録（カルテ）を選出します。その後、転倒者氏名（カルテ番号）は代替する登録番号にて匿名化し、入院中の診療録、アナムネ用紙、転倒リスク評価表、入院中の転倒報告書より下記の項目を調査します。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

調査項目

身長、体重、年齢、性別、既往歴、治療内容、入院期間、治療経過、内服薬、血液検査データ、心機能検査データ、下肢の筋力低下・転倒リスク評価、転倒時の状況、夜間の排尿状況、睡眠状況など

・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院保健学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・研究期間

研究を行う期間は、承認日より平成 27 年 12 月 31 日までです。

・医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、夜間転倒および夜間頻尿との関連を明らかにすることにより、転倒リスク評価に必要な改善点を見出すデータを提出することが可能となります。それにより、睡眠状態の観察が転倒予防介入において大きな役割を果たし、多くの患者さんの転倒予防のための看護に貢献できる可能性が高いと考えます。

・研究機関

研究責任者：九州大学大学院医学研究院保健学部門・教授・樗木晶子

研究分担者：九州大学病院睡眠時無呼吸センター・センター長・特任教授

済生会二日市病院・副院長・循環器内科・顧問医師・安藤真一

九州大学病院睡眠時無呼吸センター・副センター長・特任講師・西坂麻里

九州大学大学院医学研究院保健学部門・准教授・橋口暢子

九州大学大学院医学研究院保健学部門・講師・宮園真美

九州大学大学院医学研究院保健学部門・助教・孫田千恵

九州大学大学院医学系学府保健学専攻・大学院生・澤渡浩之

九州大学大学院医学系学府保健学専攻・大学院生・小野淳二

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1 Tel : (092)642-6713

連絡先担当者：九州大学大学院医学研究院保健学部門・孫田千恵